令和元年度

**外国人患者受入体制整備に向けた実態調査業務**

**最終結果報告書**

**令和2年3月**

目次

[Ⅰ　調査の概要 5](#_Toc37164436)

[１．調査の目的 5](#_Toc37164437)

[２．調査の方法 7](#_Toc37164438)

[３．調査結果 7](#_Toc37164439)

[４．報告書の見方 8](#_Toc37164440)

[Ⅱ.調査結果の概要 9](#_Toc37164441)

[1.病院調査 9](#_Toc37164442)

[調査票Ａ　医療機関における外国人受入能力の把握調査 9](#_Toc37164443)

[①　基本情報（令和元年９月１日時点） 9](#_Toc37164444)

[所在地 9](#_Toc37164445)

[許可病床数 10](#_Toc37164446)

[平成30年度の延べ外来患者数（日本人・外国人問わず） 10](#_Toc37164447)

[平成30年度の延べ入院患者数（日本人・外国人問わず） 10](#_Toc37164448)

[医療機関の種別 11](#_Toc37164449)

[診療科目 14](#_Toc37164450)

[外国人患者に対応する体制について 15](#_Toc37164451)

[②　外国人患者に対応する体制 16](#_Toc37164452)

[外国人患者対応の専門部署 16](#_Toc37164453)

[外国人患者対応マニュアルの整備状況 16](#_Toc37164454)

[外国人向け医療コーディネーターの配置 18](#_Toc37164455)

[医療通訳の配置 22](#_Toc37164456)

[電話通訳（遠隔通訳）の利用 25](#_Toc37164457)

[ビデオ通訳（遠隔通訳）の利用　　　　　　　※昨年度調査では実施せず。 27](#_Toc37164458)

[院内案内図、院内表示の状況 28](#_Toc37164459)

[外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況 29](#_Toc37164460)

[③　医療費の請求方法 31](#_Toc37164461)

[④　キャッスレス決済の導入状況 32](#_Toc37164462)

[カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済 32](#_Toc37164463)

[非接触カードを利用した決済 33](#_Toc37164464)

[ＱＲコードを利用した決済 34](#_Toc37164465)

[⑤　未収金等への対策 34](#_Toc37164466)

[訪日外国人患者に対する診療に際し実施している取組 34](#_Toc37164467)

[在留外国人に対する本人確認 35](#_Toc37164468)

[調査票Ｂ　外国人患者の受入に関する調査 37](#_Toc37164469)

[①　基本情報 37](#_Toc37164470)

[所在地 37](#_Toc37164471)

[②　外国人患者の受入実績 38](#_Toc37164472)

[令和元年10月1日～10月31日の期間に受け入れた在留外国人患者 38](#_Toc37164473)

[令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた訪日外国人（医療渡航を除く） 43](#_Toc37164474)

[令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた医療を目的に訪日した外国人 47](#_Toc37164475)

[③　未収金を生じた患者 51](#_Toc37164476)

[令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細 51](#_Toc37164477)

[医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査 52](#_Toc37164478)

[調査票C　大阪府独自追加調査 52](#_Toc37164479)

[①　基本情報 52](#_Toc37164480)

[所在地 52](#_Toc37164481)

[②　外国人患者の年間受入れ実績 53](#_Toc37164482)

[平成30年度（4月1日～3月31日）中の受入れ実績　　　　　　　　＿＿＿ 53](#_Toc37164483)

[外国人患者を受け入れる際に対応したことのある言語 61](#_Toc37164484)

[外国人患者を受け入れる際に確認している情報 61](#_Toc37164485)

[外国人患者の受診理由 62](#_Toc37164486)

[外国人患者を受け入れた際のトラブル 63](#_Toc37164487)

[外国人患者の医療保険加入の有無 65](#_Toc37164488)

[Q1-2で(C)医療を目的に訪日した外国人へどのような医療をしたか 66](#_Toc37164489)

[おおさかメディカルネットについて 67](#_Toc37164490)

[外国人患者の受入れにあたって、その他の意見等として 69](#_Toc37164491)

[2.診療所調査 72](#_Toc37164492)

[調査票Ａ　医療機関における外国人受入能力の把握調査 72](#_Toc37164493)

[①　基本情報（令和元年９月１日時点） 72](#_Toc37164494)

[所在地 72](#_Toc37164495)

[平成30年度の延べ外来患者数（日本人・外国人問わず） 73](#_Toc37164496)

[外国人患者対応マニュアルの整備状況 73](#_Toc37164497)

[外国人向け医療コーディネーターの配置 74](#_Toc37164498)

[医療通訳の配置 74](#_Toc37164499)

[電話通訳（遠隔通訳）の利用 74](#_Toc37164500)

[ビデオ通訳（遠隔通訳）の利用 75](#_Toc37164501)

[院内案内図、院内表示の状況 75](#_Toc37164502)

[外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況 75](#_Toc37164503)

[③　医療費の請求方法 76](#_Toc37164504)

[④　キャッスレス決済の導入状況 76](#_Toc37164505)

[カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済 76](#_Toc37164506)

[非接触カードを利用した決済 77](#_Toc37164507)

[ＱＲコードを利用した決済 77](#_Toc37164508)

[⑤　未収金等への対策 78](#_Toc37164509)

[訪日外国人患者に対する診療に際し実施している取組 78](#_Toc37164510)

[在留外国人に対する本人確認 78](#_Toc37164511)

[調査票Ｂ　外国人患者の受入に関する調査 80](#_Toc37164512)

[①　基本情報 80](#_Toc37164513)

[所在地 80](#_Toc37164514)

[②　外国人患者の受入実績 81](#_Toc37164515)

[令和元年10月1日～10月31日の期間に受け入れた在留外国人患者 81](#_Toc37164516)

[令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた訪日外国人（医療渡航を除く） 81](#_Toc37164517)

[令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた医療を目的に訪日した外国人 82](#_Toc37164518)

[③　未収金を生じた患者 82](#_Toc37164519)

[令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細 82](#_Toc37164520)

[医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査 83](#_Toc37164521)

[調査票C　大阪府独自追加調査 83](#_Toc37164522)

[①　基本情報 83](#_Toc37164523)

[所在地 83](#_Toc37164524)

[②　外国人患者の年間受入れ実績 84](#_Toc37164525)

[平成30年度（4月1日～3月31日）中の受入れ実績 84](#_Toc37164526)

[外国人患者を受け入れる際に対応したことのある言語 87](#_Toc37164527)

[外国人患者を受け入れる際に確認している情報 87](#_Toc37164528)

[外国人患者の受診理由 88](#_Toc37164529)

[外国人患者を受け入れた際のトラブル 89](#_Toc37164530)

[外国人患者の医療保険加入の有無 91](#_Toc37164531)

[Q1-2で(C)医療を目的に訪日した外国人へどのような医療をしたか 92](#_Toc37164532)

[おおさかメディカルネットについて 93](#_Toc37164533)

[Ⅲ　調査結果の分析 94](#_Toc37164534)

[１．二次医療圏別の外国人患者受入実績 94](#_Toc37164535)

[２．診療科目別の外国人患者受入れ実績 95](#_Toc37164536)

[３．病床数別の「外国人患者の受入に関する体制整備方針」の把握 96](#_Toc37164537)

[４．病床数別の「電話通訳」の利用状況 96](#_Toc37164538)

[５．病床数別の「タブレット」の利用状況 97](#_Toc37164539)

[６．病床数別の「キャッシュレス決済」の利用状況 97](#_Toc37164540)

[７．外国人患者受入れ環境の整備状況と外国人患者受入れ実態との相関関係の分析 98](#_Toc37164541)

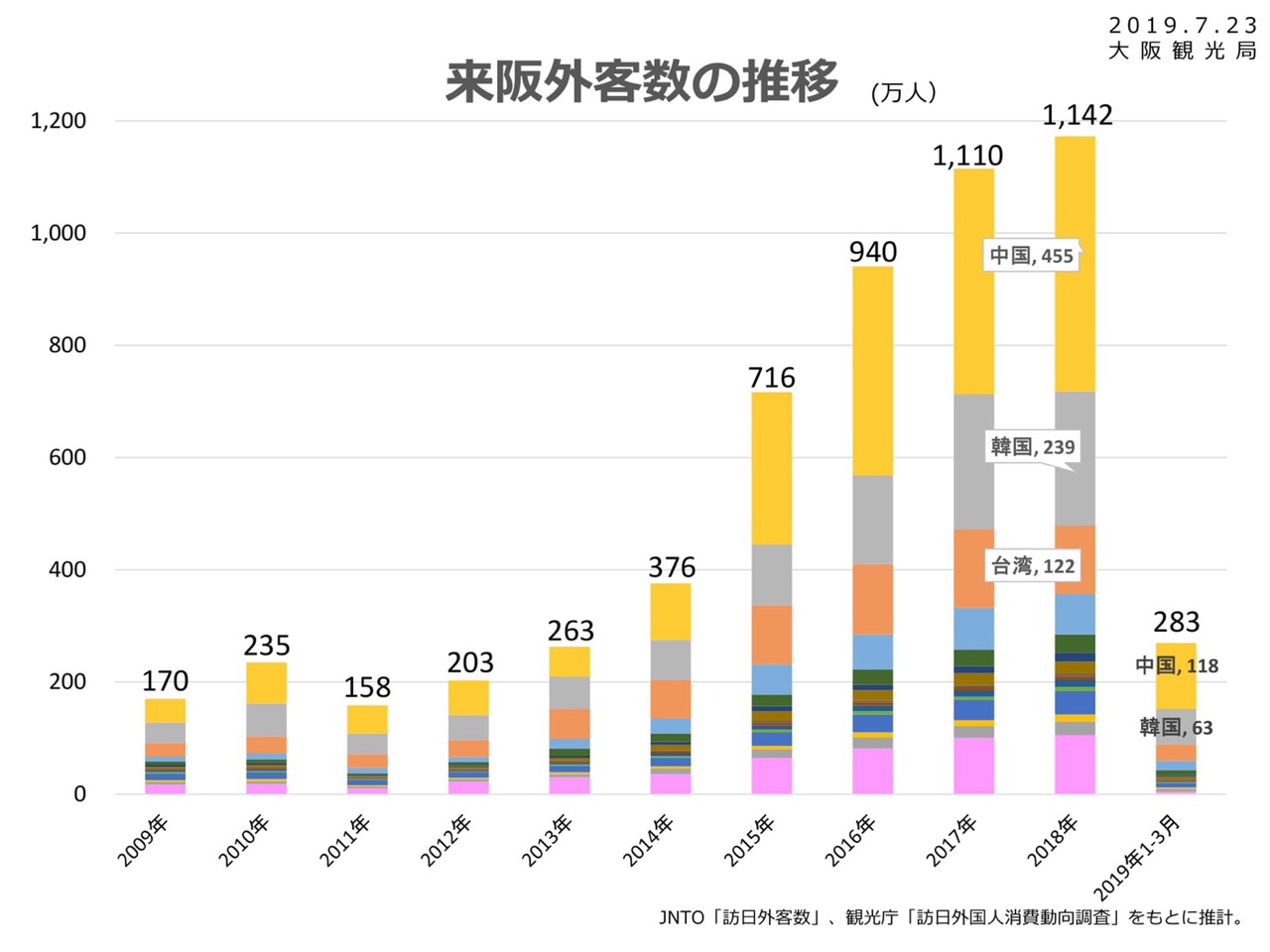
# **Ⅰ　調査の概要**

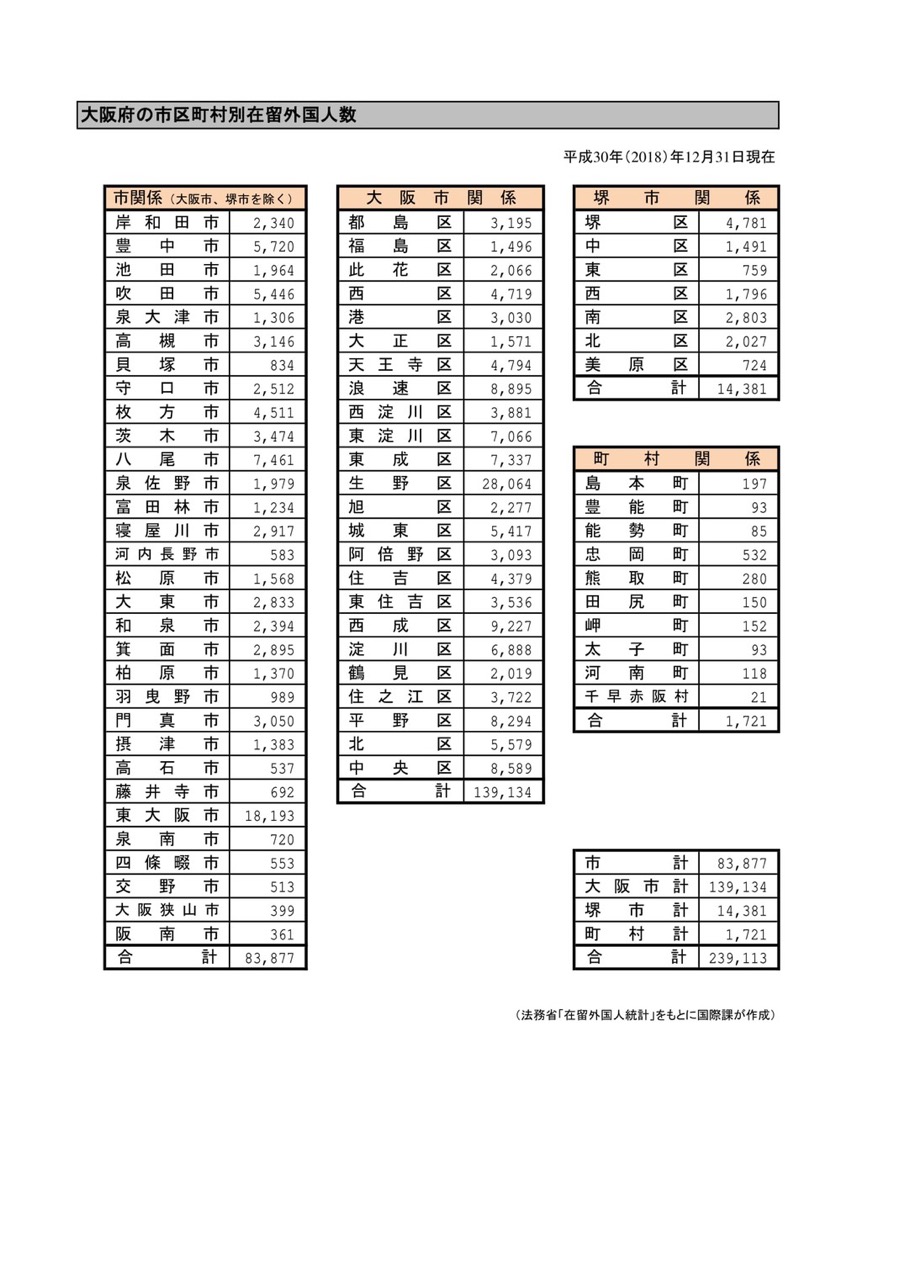
## **１．調査の目的**

近年訪日外国人が増加し、更に2019年4月新たな在留資格「特定技能」を新設する改正出入国管理法が施行され、2019年度は最大で47,550人、5年間で約345,000人の外国人労働者の受入れが見込まれています。このような中、課題の解決に向け厚生労働省では、外国人に対する医療提供体制の現状の把握が必要とし、全国の病院を対象とした実態調査が平成30年度より実施され、令和元年度も引き続き同様の調査が実施されることとなりました。

本府においても、2018年は1,142万人と急増する来阪外国人旅行者、及び外国人人材受け入れ拡大の中で増加が見込まれる府内在留外国人が、急な病気やケガをした際の受入れ状況について、昨年度に引き続き、府内517件の病院、また府内においてランダムに抽出された100件の診療所を対象にアンケート調査を実施し、厚生労働省調査項目と併せて府独自に実態を分析することとしました。

加えて、昨年度の調査結果と経年比較・分析も行い、府の今後の外国人患者受入体制整備に向けた基礎資料として活用することといたしました。





## **２．調査の方法**

府内全病院517件、診療所100件にアンケートにより調査を行った。

(※調査期間　令和元年9月～令和2年2月7日まで)

①病院調査

・調査方法：郵送及びメールで配布、郵送及び電子メールで回収

・調査対象：大阪府内の全病院517件（令和元年8月時点）

②診療所調査

・調査方法：郵送及びメールで配布、郵送及び電子メールで回収

・調査対象：大阪府内の診療所100件を抽出

・抽出方法：昨年度調査対象医療機関に引き続き調査を依頼。1医療機関について、昨年度調査後、閉院したため、昨年度と同様の考え方で追加抽出を行った。

昨年度調査における抽出方法は、大阪府内全域より診療科目毎の外国人患者の多い診療科割合と二次医療圏毎の診療所数割合を参考に抽出。具体的には、調査対象の診療科目は、診療科目ごとの外国人患者の多い診療科とした。内科、外科、小児科、さらに関係者との調整の下、精神科、歯科とし、診療科目毎の抽出数は、平成29年厚生労働省調査「医療機関における外国人旅行者及び在留外国人受入れ体制等の実態調査」の外国人患者の多い診療科のうち、10％以上の科目は構成割合を参考に、その他科目については一律10カ所抽出することとした。さらに、二次医療圏毎の診療所数の割合（平成30年8月時点）を算出し、当該割合を参考に、二次医療圏毎に抽出数を割り当てた上で、府内診療所をランダムに抽出した。

## **３．調査結果**

　①病院調査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 調査票 | 配布件数 | 回収件数 | 回収率 |
| Ａ　医療機関における受入体制に関する調査 | 517件 | 356件 | 68.9％ |
| Ｂ　外国人患者の受入に関する調査 | 517件 | 296件 | 57.3％ |
| Ｃ　大阪府独自追加調査 | 517件 | 338件 | 65.3％ |

②診療所調査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 調査票 | 配布件数 | 回収件数 | 回収率 |
| Ａ　医療機関における受入体制に関する調査 | 100件 | 52件 | 52.0％ |
| Ｂ　外国人患者の受入に関する調査 | 100件 | 47件 | 47.0％ |
| Ｃ　大阪府独自追加調査 | 100件 | 51件 | 51.0％ |

## **４．報告書の見方**

1. 各アンケートの回答を二次医療圏別、許可病床数等に分け各回答の割合を表記。
2. 無回答については各アンケートにて回答のなかった割合である。
3. ｎについては集計対象者総数（回答者限定設問の場合は限定条件該当者総数）である
4. 在留外国人、訪日外国人（医療渡航を除く）、医療を目的に訪日した外国人外国人の定義については以下のとおりである。

　　・在留外国人：

　　　在留資格を持ち（在留カード所持者）、日本に中長期居住している外国人患者。

　　・訪日外国人（医療渡航を除く）：

　　　観光等の目的で日本に短期間訪日している外国人。ただし、下記の「医療を目的に訪日した外国人」を除く。

　　・医療を目的に訪日した外国人：

訪日外国人のうち、日本に入国する前に、医療機関と調整した上で来日した外国人。

1. 各回答率は四捨五入にて計算されている。その為、合計値が100にならないケースもある。

# **Ⅱ.調査結果の概要**

# **1.病院調査**

# **調査票Ａ　医療機関における外国人受入能力の把握調査**

## **①　基本情報（令和元年９月１日時点）**

## **所在地**

　病院の所在地を二次医療圏別でみると、「大阪市全体」が最も多く31.2％、次いで「泉州」が14.9％、「北河内」が13.2％と続いています。

※昨年度調査では、「大阪市全体」が最も多く32.5％、次いで「泉州」が13.5％、「北河内」が12.4％であり、昨年度と似た結果となっています。

(%)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 二次医療圏 | | 構成市町村・区 | |
| 豊能 | | 豊中市、池田市、吹田市、箕面市、豊能町、能勢町 | |
| 三島 | | 高槻市、茨木市、摂津市、島本町 | |
| 北河内 | | 守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四条畷市、交野市 | |
| 中河内 | | 八尾市、柏原市、東大阪市 | |
| 南河内 | | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、  太子町、河南町、千早赤阪村 | |
| 堺市 | | 堺市 | |
| 泉州 | | 岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、  阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 | |
| 大阪市全体 | | 大阪市 | |
|  | 大阪市北部 | | 都島区、東淀川区、旭区、淀川区、北区 |
| 大阪市西部 | | 福島区、此花区、港区、大正区、西淀川区、西区 |
| 大阪市東部 | | 天王寺区、浪速区、東成区、生野区、鶴見区、中央区、城東区 |
| 大阪市南部 | | 阿倍野区、住吉区、東住吉区、西成区、住之江区、平野区 |

## **許可病床数**

　許可病床数について、「100床以上200床未満」が最も多く27.5％、次いで「50床以上100床未満」が23.0％、「400床以上」が14.9％と続いています。

(%)

## **平成30年度の延べ外来患者数（日本人・外国人問わず）**

　平成30年度の延べ外来患者数について、「70,000人以上」が最も多く28.7％、次いで「10,000人以上30,000人未満」が24.7％、「30,0000人以上70,000人未満」が19.9％と続いています。

(%)

## **平成30年度の延べ入院患者数（日本人・外国人問わず）**

　平成30年度の延べ入院患者数について、「70,000人以上」が最も多く32.6％、次いで「30,000人以上70,000人未満」が30.3％、「10,000人以上30,000人未満」が19.7％と続いています。

(%)

【n=356】

## **医療機関の種別**

　医療機関の種別について、「第２次救急医療機関」が最も多く90.7％、次いで「地域医療支援病院」が18.0％、「災害拠点病院」が8.8％と続いています。

(%)

※外国人受入れ環境整備事業の対象医療機関

これまで厚生労働省が行ってきた、「外国人患者受入れ環境整備推進事業」で整備された医療機関

※大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関：外国人患者で入院を要する救急患者に対応可能な医療機関

＜大阪府選定要件＞

大阪府「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」における三次告示医療機関、及び二次告示医療機関のうち重症初期対応医療機関・重症小児対応医療機関・特定機能対応医療機関でありかつ一般財団法人日本医療教育財団が実施する外国人患者受入れ医療機関認証制度を選定時点で取得している医療機関

　※大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関：外国人患者を受け入れ可能な医療機関

　　　＜大阪府選定要件＞

　　　以下のイ、ロをともにみたすこと。

イ 多言語対応が可能であること。なお、言語の種類は医療機関の実情にあわせて設定するものとし、医療通訳者、電話通訳、デバイス等形式は問わないものとする。

ロ 以下のいずれかを満たすこと

（イ） 平成２９年度の一年間で、外国人患者の新規入院患者数及び外来初診患者数の合計が１００名以上の医療機関

（ロ） JMIP認証制度を選定時点で取得している医療機関

（ハ） 厚生労働省「 「外国人患者受入環境整備推進事業」に参加の医療機関

※ジャパンインターナショナルホスピタルズ

　　一般社団法人Medical Excellence JAPANにより推奨されている医療機関

※ＪＭＩＰ認証病院

　　　一般財団法人日本医療教育財団により認証された医療機関

外国人受入れ環境整備事業の対象医療機関（大阪府内2施設）

平成30年度『医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業』医療通訳配置等間接補助事業を実施する病院（外国人患者受入れ拠点病院）

・医療法人徳洲会　岸和田徳洲会病院

・地方独立行政法人　りんくう総合医療センター

大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関（大阪府内4施設）

・国立大学法人　大阪大学医学部附属病院

・医療法人徳洲会　岸和田徳洲会病院

・医療法人沖縄徳洲会　吹田徳洲会病院

・地方独立行政法人　りんくう総合医療センター

大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関（大阪府内26施設）

・国立大学法人　大阪大学歯学部附属病院

・社会福祉法人　恩賜財団　済生会吹田病院

・社会医療法人愛仁会　高槻病院

・医療法人　恵仁会　田中病院

・関西医科大学総合医療センター

・学校法人　関西医科大学附属病院

・医療法人徳洲会グループ　野崎徳洲会病院

・医療法人徳洲会　八尾徳洲会病院

・独立行政法人国立病院機構　大阪南医療センター

・学校法人近畿大学　近畿大学病院

・地方独立行政法人　堺市立病院機構　堺市立総合医療センター

・社会医療法人生長会　府中病院

・社会福祉法人石井記念愛染園附属　愛染橋病院

・社会医療法人ささき会　藍の都脳神経外科病院

・地方独立行政法人大阪府立病院機構　大阪急性期・総合医療センター

・私立学校法人　大阪歯科大学附属病院

・日本赤十字社　大阪赤十字病院

・社会医療法人寿楽会　大野記念病院

・社会医療法人協和会　加納総合病院

・公益財団法人附興風会医学研究所　北野病院

・一般財団法人　住友病院

・社会医療法人愛仁会　千船病院

・社会医療法人寿会　富永病院

・社会医療法人弘道会　なにわ生野病院

・公益財団法人日本生命済生会　日本生命病院

・宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション　淀川キリスト教病院

ジャパンインターナショナルホスピタルズ（大阪府内3施設、令和元年9月1日現在）

　・大阪大学医学部附属病院

　・医療法人沖縄徳洲会 吹田徳洲会病院

　・医療法人河北会 河北病院

ＪＭＩＰ認証病院（大阪府内4施設）

　・医療法人沖縄徳洲会　吹田徳洲会病院

　・国立大学法人大阪大学　医学部附属病院

　・医療法人徳洲会　岸和田徳洲会病院

　・地方独立行政法人　りんくう総合医療センター

## **診療科目**

　診療科目について、「内科」が最も多く89.5％、次いで「リハビリテーション科」が76.5％、「整形外科」が67.4％と続いています。

(%)

## **外国人患者に対応する体制について**

外国人患者の受入のための医療機関向けマニュアルについて「知っている」が56.2％、「知らない」が41.9％となっています。

※昨年度調査では、外国人患者の受入のための医療機関向けマニュアルについての調査は行っていません。

【n=356】

　マニュアルに記載されている「外国人患者の受入に関する体制整備方針」について、「内容を確認した」が41.0％、「内容を確認していない」が53.1％となっています。

【n=356】

## **②　外国人患者に対応する体制**

## **外国人患者対応の専門部署**

　外国人患者対応の専門部署について、「部署なし」が93.8％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、「部署なし」が95.0％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **外国人患者対応マニュアルの整備状況**

　外国人患者対応マニュアルが整備されている病院は許可病床数別でみると、「300床以上400床未満」が最も多く17.4％、次いで「200床以上300床未満」が13.3％、「400床以上」が11.3％と続いています。

　※昨年度調査では、許可病床数別でみると、「200床以上300床未満」が最も多く23.3％、次いで「300床以上400床未満」が22.5％、「400床以上」が19.3％と続いています。

(%)

　外国人対応マニュアルが整備されている病院で利用できる職員の範囲について、「全ての職員が利用できる」が61.8％、「一部の職員が利用できる」が34.6％となっています。

※昨年度調査では、「全ての職員が利用できる」が21.1％、「一部の職員が利用できる」が77.2％となっており、「全ての職員が利用できる」の割合が約3倍に増加しています。

(%)

外国人対応マニュアルを一部の職員が利用できる病院で利用できる職員の部門について、「受付」が最も多く75.0％となっています。

　　※昨年度調査では、「受付」が最も多く59.1％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **外国人向け医療コーディネーターの配置**

　外国人向け医療コーディネーターの配置について、「配置していない」が93.8％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、「配置していない」が96.0％となっており、昨年度と似た結果になっています

(%)

　配置している外国人向け医療コーディネーターの専任・兼任の区分について、「兼任のみ」が最も多く66.7％となっています。

　※昨年度調査では、「兼任のみ」が最も多く60.0％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

外国人向け医療コーディネーターの兼職について、「事務職員」が最も多く87.5％となっています。

　※昨年度調査では、「事務職員」が最も多く80.0％となっており、昨年度と似た結果になっています

(%)

配置している外国人向け医療コーディネーターの常勤・非常勤の区分について、「常勤のみ」が最も多く72.2％となっています。

※昨年度調査では、「常勤のみ」が最も多く50.0％となっており、昨年度より常勤の外国人向け医療コーディネーターが増加しています。

(%)

週の中で外国人向け医療コーディネーターがカバーしている範囲について、「平日のみ」が最も多く77.8％となっています。

※昨年度調査では、平日のみ」が最も多く80.0％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

　コーディネーターがカバーしている時間帯について、「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が最も多く88.9％となっています。

　※昨年度調査では、「勤務時間帯（日勤帯）のみ」が最も多く70.0％、「24時間」が10.0％となっており、今年度調査では「24時間」体制でカバーしている病院が減少傾向にあります。

(%)

配置している外国人向け医療コーディネーターの役割について、「院内の連携調査」が最も多く88.2％となっています。次いで、「医療者のサポート」「院外の関係機関との連携調査」が82.4％と続きます。

※昨年度調査では、「多言語対応」が最も多く90.0％となっています。

(%)

外国人向け医療コーディネーターが対応している言語について、「英語」が92.3％と最も多くなっています。

※昨年度調査でも今年度同様「英語」が最も多いですが、昨年度「英語」は100％、「中国語」・「スペイン語」は33.0％ずつであり、「中国語」は増加、「英語」「スペイン語」は減少傾向にあります。

(%)

## **医療通訳の配置**

　医療通訳の配置について、「配置していない」が93.0％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、「配置していない」が92.9％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

配置している医療通訳の専任・兼任の区分について、「兼任のみ」が最も多く54.5％となっています。

※昨年度調査でも、「兼任のみ」が最も多く82.6％となっていますが、昨年度「専任、兼任とも配置」・「専任のみ」が併せて13.0％だったのに対し、今年度は「専任、兼任とも配置」・「専任のみ」を併せて31.8％と増加しています。

(%)

配置している医療通訳の兼職について、「事務職員」が最も多く93.3％となっています。

※昨年度調査でも、「事務職員」が最も多いが昨年度は56.5％となっており、昨年度より増加傾向にあります。

(%)

配置している医療通訳の常勤・非常勤の区分について、「常勤のみ」が最も多く50.0％となっています。

　※昨年度調査では、「常勤のみ」が最も多く60.9％となっていますが、「常勤、非常勤とも配置」が昨年度の13.0％より36.4％と2倍以上増加しています。

(%)

週の中で医療通訳がカバーしている範囲について、「平日のみ」が最も多く68.2％となっています。

※昨年度調査では、「平日のみ」が最も多く73.9％となっており、昨年度と似た結果になっています

(%)

医療通訳がカバーしている時間帯について、「勤務時間帯（日勤）のみ」が最も多く86.4％となっています。

　※昨年度調査では、「勤務時間帯（日勤）のみ」が最も多く82.6％となっています。「24時間」は昨年度の4.3％から今年度0％に減少しています。

(%)

医療通訳が対応している言語について、「英語」が最も多く80.0％、次いで「中国語」が65.0％、「韓国・朝鮮語」が20.0％と続いています。

(%)

## **電話通訳（遠隔通訳）の利用**

　電話通訳（遠隔通訳）の利用について、「利用していない」が71.3％占めています。

　※昨年度調査では、「利用している」が5.8％でしたが今年度は27.2％と約4倍に増加しています。

(%)

利用している電話通訳（遠隔通訳）がカバーしている範囲について、「平日、休日関わらずカバー」が最も多く90.7％となっています。

　※昨年度調査でも、「平日、休日関わらずカバー」が最も多く72.7％となっていますが、「平日のみ」が27.3％から今年度4.1％と減少しており、その分「平日、休日関わらずカバー」が増加しています。

(%)

利用している電話通訳（遠隔通訳）がカバーしている時間帯について、「24時間」が最も多く90.7％となっています。

※昨年度調査でも、「24時間」が最も多く45.5％となっていますが、今年度はおよそ2倍に増加しています。

(%)

利用している電話通訳（遠隔通訳）が対応している言語について、「英語」と「中国語」がそれぞれ最も多くなっています。

　※昨年度調査でも、「英語」と「中国語」がそれぞれ最も多くなっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **ビデオ通訳（遠隔通訳）の利用　　　　　　　※昨年度調査では実施せず。**

　ビデオ通訳（遠隔通訳）の利用について、「利用していない」が93.3％を占めています。電話通訳に比べると、「利用している」がおよそ5分の1となっています。

(%)

【n=356】

利用しているビデオ通訳（遠隔通訳）がカバーしている範囲について「平日、休日関わらずカバー」が最も多く57.9％となっています。

(%)

利用しているビデオ通訳（遠隔通訳）がカバーしている時間帯について、「24時間」が最も多く47.4％となっています。

(%)

利用しているビデオ通訳（遠隔通訳）が対応している言語について、電話通訳と同じく「英語」と「中国語」がそれぞれ最も多くなっています。

(%)

## **院内案内図、院内表示の状況**

　院内案内図、院内表示の状況について、「多言語化していない」が88.8％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、「多言語化していない」が87.9％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

　多言語化している院内案内図、院内表示の言語について、「英語」が最も多く100.0％、次いで「韓国・朝鮮語」が36.1％、「中国語」が33.3％と続いています。

　※昨年度調査では、「英語」が最も多く91.9％、次いで「中国語」が24.3％、「韓国・朝鮮語」が18.9％となっており、「中国語」・「韓国朝鮮語」の院内表示が増加しています。

(%)

## **外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況**

　外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況について、「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が79.8％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が89.4％となっていますが、「医療機関として導入している」が昨年度の6.9％から今年度18.5％と2倍以上に増加しています。

(%)

　導入しているタブレット端末、スマートフォン端末を利用できる職員の部門について、「診療部門」が最も多く76.6％、次いで「受付」が64.1％、「その他」が35.9％と続いています。

　※昨年度調査では、「受付」が最も多く73.1％、次いで「診療部門」が65.4％、「外国人患者対応の専門部署」が26.9％となっており、「受付」と「診療部門」が逆転しています。

(%)

導入しているタブレット端末、スマートフォン端末に備わっている機能について、「翻訳機能」が最も多く96.9％となっています。

※昨年度調査でも、「翻訳機能」が最も多いが84.6％となっており、昨年度「その他」19.2％から今年度4.7％と減少しています。

(%)

導入しているタブレット端末、スマートフォン端末に備えている翻訳機能の対応言語について、「英語」と最も多く100.0％、次いで「中国語」が95.0％となっています。

※昨年度調査では、「英語」と「中国語」がそれぞれ最も多く92.3％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **③　医療費の請求方法**

　医療費の請求方法について、「日本の診療報酬点数表を基準とし、１点10円で請求している」が最も多く85.4％となっています。

　※昨年度調査では、「日本の診療報酬点数表を基準とし、１点10円で請求している」が最も多く76.8％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

また、医療費の請求方法として最も多い「日本の診療報酬点数表を基準とし、１点10円で請求している」を法人種別でみると、「医療法人」が最も多く79.3％（222件）、次いで「個人」が6.3％（20件）、「市町村」が4.5％（15件）と続いています。

※昨年度調査では、「医療法人」が最も多く79.4％（231件）、次いで「個人」が4.1％（12件）、「市町村」が3.8％（11件）と続いています。

(%)

日本の診療報酬点数表を基準としての請求の他、追加的な費用を請求している内容について、「診断書作成料等の事務手数料」が最も多く88.9％となっています。

※昨年度調査では、「診断書作成料等の事務手数料」が最も多く76.8％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **④　キャッスレス決済の導入状況**

## **カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済**

　カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済の導入状況について、「400床以上」が最も多く83.0％となっています。

　※昨年度調査では、「400床以上」が最も多く77.2％であり、昨年度同様、今年度も許可病床数が増えるにつれて導入している割合が高くなっています。

導入しているカード（クレジットカード、デビットカード）の対応ブランドについて、「Visa(ビザ)」が最も多く99.5％、次いで「Mastercard（マスター）」が95.8％、「JCB（ジェーシービー）」が88.0％と続いています。

　※昨年度調査では、「Visa(ビザ)」が最も多く97.4％、次いで「Mastercard（マスター）」が91.2％、「JCB（ジェーシービー）」が88.7％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **非接触カードを利用した決済**

非接触カードを利用した決済の導入状況について、「導入していない」が88.5％と大半を占めています。

※昨年度調査では、「導入していない」が88.9％となっており、昨年度と似た結果になっていますが、「導入している」が昨年度の0.5％から今年度1.7％と割合は倍増しています。

(%)

## **ＱＲコードを利用した決済**

　ＱＲコードを利用した決済を導入状況について、「導入していない」が88.8％と大半を占めています。

※昨年度調査でも、「導入していない」が87.1％と大半を占めていましたが、昨年度「導入している」病院件数が0だったのに対し、今年度3件増えている事からキャッシュレス化が府内病院でも少しずつ進んでいると思われます。

(%)

## **⑤　未収金等への対策**

## **訪日外国人患者に対する診療に際し実施している取組**

　未収金等への対策として訪日外国人患者に対する診察に際し実施している取組について、「特に未収金対策を行なっていない」が最も多く53.8％、次いで「パスポート等、身分証のコピーの保存」が36.3％、「パスポート等、身分証の確認」が31.4％と続いています。

(%)

　未収金等への対策として取得している同意書の内容について、「請求された金額を支払う」が最も多く62.8％となっています。

　※昨年度調査では、「請求された金額を支払う」が最も多く76.3％、「診察に協力する」が52.5％となっていました。

(%)

## **在留外国人に対する本人確認**

　在留外国人に対する本人確認について、「本人確認している」が52.2％、「本人確認していない」が36.8％となっています。

　※昨年度調査では、在留外国人に対する本人確認について、「本人確認している」が52.5％、「本人確認していない」が28.0％となっており、「本人確認していない」が増加傾向にあります。

(%)

在留外国人に対する本人確認の際に提示を求めているものについて、「パスポート」が最も多く63.5％、次いで「在留カード」が51.9％となっています。

※昨年度調査では、「パスポート」が最も多く61.8％、次いで「在留カード」が52.8％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

# **調査票Ｂ　外国人患者の受入に関する調査**

## **①　基本情報**

## **所在地**

　病院の所在地を二次医療圏別でみると、「大阪市全体」が最も多く31.1％、次いで「泉州」が15.2％、「北河内」が11.8％と続いています。

※昨年度調査では、「大阪市」が最も多く32.2％、次いで「泉州」が13.6％、「北河内」が12.9％と続いており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 二次医療圏 | | 構成市町村・区 |
| 豊能 | | 豊中市、池田市、吹田市、箕面市、豊能町、能勢町 |
| 三島 | | 高槻市、茨木市、摂津市、島本町 |
| 北河内 | | 守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四条畷市、交野市 |
| 中河内 | | 八尾市、柏原市、東大阪市 |
| 南河内 | | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、  太子町、河南町、千早赤阪村 |
| 堺市 | | 堺市 |
| 泉州 | | 岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、  阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 |
| 大阪市全体 | | 大阪市 |
|  | 大阪市北部 | 都島区、東淀川区、旭区、淀川区、北区 |
| 大阪市西部 | 福島区、此花区、港区、大正区、西淀川区、西区 |
| 大阪市東部 | 天王寺区、浪速区、東成区、生野区、鶴見区、中央区、城東区 |
| 大阪市南部 | 阿倍野区、住吉区、東住吉区、西成区、住之江区、平野区 |

## **②　外国人患者の受入実績**

## **令和元年10月1日～10月31日の期間に受け入れた在留外国人患者**

　在留外国人患者の受入れの有無について、外来では「あり」が最も多く48.6％、次いで「なし」が39.2％、「把握できなかった」が11.5％、入院では「なし」が最も多く66.5％、次いで「あり」が23.0％、「把握できなかった」が9.8％となっています。

※昨年度調査では、外来では「あり」が最も多く47.3％、次いで「なし」が39.4％、「把握できなかった」が11.4％、入院では「なし」が最も多く66.2％、次いで「あり」が18.3％、「把握できなかった」が10.7％となっており、昨年度と似た結果になっています。

≪外来≫

把握している在留外国人患者について、「在留資格を持ち中長期日本に居住している外国人患者」が41.9％、「日本語での意思疎通が難しい、在留資格をもつ外国籍の患者」が8.1％となっています。

※昨年度調査では、「在留資格を持ち中長期日本に居住している外国人患者」が44.1％、「日本語での意思疎通が難しい、在留資格をもつ外国籍の患者」が11.1％となっており、昨年度と似た結果になっています。

　期間内の延べ患者数について、外来では「5名以内」が最も多く21.7％、次いで「21名以上」が19.6％、「6～10名」が13.3％、入院では「5名以内」が最も多く50.0％、次いで「21名以上」が8.8％、「6～10名」が4.4％と続いています。

※昨年度調査では、外来では「5名以内」が最も多く39.3％、次いで「21名以上」が28.0％、「6～10名」が16.7％、入院では「5名以内」が最も多く67.2％、次いで「6～10名以内」が13.8％、「21名以上」が10.3％と続いていました。

≪外来≫

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来 | 入院 | 合計 |
| 受入れ延べ患者数 | 4,859人  (21,720人) | 756人  (5,826人) | 5,615人  (27,546人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

受け入れた外国人の国籍について、「中国」が最も多く1.295人、次いで「韓国」が649人、「ベトナム」が409人と続いています。

※昨年度調査では、「中国」が最も多く907人、次いで「ベトナム」が244人、「韓国」が202人と続いており、各国増加傾向にあるが特に「韓国」が3倍以上に増加しています。

＜今年度調査結果＞

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 中国 | ベトナム | ロシア | アメリカ合衆国 | インドネシア | 韓国 | カナダ | モンゴル | オーストラリア | フィリピン | その他・不明 |
| 1,295人 | 409人 | 34人 | 116人 | 58人 | 649人 | 15人 | 14人 | 13人 | 172人 | 1,981人 |

＜昨年度調査結果＞

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 中国 | ベトナム | ロシア | アメリカ合衆国 | インドネシア | 韓国 | カナダ | モンゴル | オーストラリア | フィリピン | その他・不明 |
| 907人 | 244人 | 12人 | 113人 | 31人 | 202人 | 6人 | 4人 | 18人 | 108人 | 25,901人 |

受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者について、外来では117人（2.5％）、入院では32人（4.3％）で、未収金の合計金額は、外来では479,723円、入院では5,336,836円となっています。

※昨年度調査では、未収金を生じた患者について、外来では180人（0.8％）、入院では43人（0.7％）で、未収金の合計金額は、外来では253,144円、入院では1,145,158円となっており、外来・入院共に未収金額が増加（特に入院）しています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来 | 入院 | 合計 |
| 未収金を生じた延べ患者数 | 117人（2.5％）  (180人【0.8％】) | 32人（4.3％）  (43人【0.7％】) | 149人（2.7％）  (223人【0.8％】) |
| 未収金の合計金額 | 479,723円  (253,144円) | 5,336,836円  (1,145,158円) | 5,816,559円  (1,398,302円) |

※下段の（～人）(～円)は昨年度調査結果。

公的医療保険利用の有無について、外来では「利用あり」が3,551人、「利用なし」が366人、入院では「利用あり」が320人、「利用なし」が41人となっています。

※昨年度調査では、外来では「利用あり」が2,426人、「利用なし」が226人、入院では「利用あり」が283人、「利用なし」が11人となっており、全項目増加傾向にあります。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来 | 入院 | 合計 |
| 公的医療保険　利用あり | 3,551人  (2,426人) | 320人  (283人) | 3,871人  (2,709人) |
| 公的医療保険　利用なし | 366人  (226人) | 41人  (11人) | 407人  (237人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

公的医療保険利用ありのうち、保険種別について、国民健康保険が1,426人、健康保険が2,270人となっています。

※昨年度調査では、公的医療保険利用ありのうち、保険種別について、国民健康保険が1,049人、健康保険が1,512人となっており、全項目増加傾向にあります。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 国民健康保険 | 健康保険※１（被保険者） | 健康保険※２（被扶養者） | その他・不明 |
| 1,426人  (1,049人) | 1,123人  (852人) | 746人  (660人) | 402人  (148人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

※１　企業等に勤務している方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

※２　企業等に勤務している方に扶養されている方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

　民間医療保険利用の有無について、「あり」が3.2％、「なし」が80.6％となっています。

※昨年度調査では、「あり」が9.2％、「なし」が68.6％となっており、「あり」「なし」ともに減少しています。

## **令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた訪日外国人（医療渡航を除く）**

訪日外国人（医療渡航を除く）の受入れの有無について、外来では「なし」が最も多く72.0％、次いで「あり」が17.9％、「把握できなかった」が6.8％、入院では「なし」が最も多く87.5％、次いで「あり」が5.1％、「把握できなかった」が4.1％となっています。

※昨年度調査では、外来では「なし」が最も多く73.5％、次いで「あり」が17.0％、「把握できなかった」が5.4％、入院では「なし」が最も多く85.2％、次いで「把握できなかった」が5.0％、「あり」が4.4％となっており、昨年度と似た結果になっています。

期間内の延べ患者数について、外来では「5名以内」が最も多く47.2％、次いで「6～10名」が5.7％、「21名以上」が3.8％、入院では「5名以内」が最も多く46.7％となっています。

※昨年度調査では、外来では「5名以内」が最も多く61.1％、次いで「6～10名」が18.5％、「21名以上」が9.3％、入院では「5名以内」が最も多く64.3％、次いで「21名以上」が14.3％、「11～20名」が7.1％と続いており、入院での「21名以上」、「11～20名」が減少しています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来 | 入院 | 合計 |
| 受入れ延べ患者数 | 345人  (17,434人) | 74人  (5,347人) | 419人  (22,781人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

受け入れた外国人の国籍について、「中国」が最も多く112人、次いで「アメリカ合衆国」が30人、「オーストラリア」が9人と続いています。

※昨年度調査では、「中国」が最も多く153人、次いで「韓国」が32人、「アメリカ合衆国」が25人と続いており、「韓国」が約10分の1に減少しています。

＜今年度調査結果＞

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 中国 | ベトナム | ロシア | アメリカ合衆国 | インドネシア | 韓国 | カナダ | モンゴル | オーストラリア | フィリピン | その他・不明 |
| 112人 | 6人 | 3人 | 30人 | 5人 | 3人 | 1人 | 0人 | 9人 | 7人 | 210人 |

＜昨年度調査結果＞

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 中国 | ベトナム | ロシア | アメリカ合衆国 | インドネシア | 韓国 | カナダ | モンゴル | オーストラリア | フィリピン | その他・不明 |
| 153人 | 15人 | 1人 | 25人 | 5人 | 32人 | 3人 | 0人 | 9人 | 12人 | 22,526人 |

受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者について、外来では107人（24.6％）、入院では33人（52.6％）、未収金の合計金額は、外来では222,883円、入院では4,656,474円となっています。

※昨年度調査では、外来では179人（1.0％）、入院では12人（0.2％）、未収金の合計金額は、外来では146,020円、入院では4,897,513円となっています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来 | 入院 | 合計 |
| 未収金を生じた延べ患者数 | 107人（24.6％）  (179人【1.0％】) | 33人（52.6％）  (12人【0.2％】) | 110人（28.5％）  (191人【0.8％】) |
| 未収金の合計金額 | 222,883円  (146,020円) | 4,656,474円  (4,897,513円) | 4,879,357円  (5,043,533円) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

公的医療保険利用の有無について、外来では「利用あり」が17人、「利用なし」が285人、入院では「利用あり」が0人、「利用なし」が24人となっています。

※昨年度調査では、外来では「利用あり」が34人、「利用なし」が286人、入院では「利用あり」が32人、「利用なし」が18人となっており入院での「利用あり」が減少しています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来 | 入院 | 合計 |
| 公的医療保険　利用あり | 17人  (34人) | 0人  (32人) | 17人  (66人) |
| 公的医療保険　利用なし | 287人  (286人) | 22人  (18人) | 309人  (304人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

公的医療保険利用ありのうち、保険種別について、国民健康保険が3人、健康保険が1人となっています。

　※昨年度調査では、国民健康保険が17人、健康保険が47人となっており、全項目減少傾向にあります。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 国民健康保険 | 健康保険※１（被保険者） | 健康保険※２（被扶養者） | その他・不明 |
| 3人  (17人) | 2人  (13人) | 0人  (34人) | 5人  (2人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

※１企業等に勤務している方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

※２企業等に勤務している方に扶養されている方で、協会けんぽや健康保険組合の保険証を所持している方。

民間医療保険利用の有無について、「あり」が26.7％、「なし」が40.0％となっています。

　※昨年度調査では、「あり」が10.7％、「なし」が69.6％となっており、「あり」が増加しています。

## **令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた医療を目的に訪日した外国人**

医療を目的に訪日した外国人の受入れの有無について、外来、入院では「なし」が最も多く87.2％、次いで「あり」が4.7％、「把握できなかった」が3.7％、健診のみのものでは「なし」が最も多く89.9％、次いで「把握できなかった」が3.7％、「あり」が1.7％となっています。

※昨年度調査では、外来では「なし」が最も多く85.5％、次いで「あり」が5.0％、「把握できなかった」が4.1％、入院では「なし」が最も多く88.0％、次いで「把握できなかった」が3.5％、「あり」が1.3％となっています。

期間内の延べ患者数について、外来、入院（健診のみのものを除く）では「5名以内」が最も多く35.7％、健診のみのもの（外来、入院を問わない）では「5名以内」が40.0％、「6～10名」が20.0％となっています。

※昨年度調査では、外来では「5名以内」が最も多く75.0％、次いで「6～10名」が12.5５、「21名以上」が6.3％、入院では「5名以内」が50.0％、次いで「11～20名」と「21名以上」がそれぞれ25.0％となっています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来、入院(健診のみのものを除く) | 健診のみのもの(外来、入院を問わない) | 合計 |
| 受入れ延べ患者数 | 71人  (65人) | 95人  (1,237人) | 166人  (1,302人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

受け入れた外国人の国籍について、「中国」が最も多く141人、「オーストラリア」が1人となっています。

※昨年度調査では、「中国」が最も多く70人、次いで「アメリカ合衆国」と「オーストラリア」がそれぞれ2人と続いています。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 中国 | ベトナム | ロシア | アメリカ合衆国 | インドネシア | 韓国 | カナダ | モンゴル | オーストラリア | フィリピン | その他・不明 |
| 141人  (70人) | 0人  (1人) | 0人  (1人) | 0人  (2人) | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 1人  (2人) | 0人  (0人) | 24人  (1,226人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

受け入れた外国人の診断のＩＣＤ分類について、「悪性新生物（C00-C97)）、「筋骨格系及び結合組織疾患（M00-M94)」が最も多く各10人、次いで「循環器系疾患(I00-I99)」が6人と続いています。

※昨年度調査では、「悪性新生物（C00-C97）」が最も多く127人、次いで「筋骨格系及び結合組織疾患（M00-M94)）が90人、「眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患（H00-H95）」が72人と続いています。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 悪性新生物  （C00-C97） | 循環器系疾患  （I00-I99) | 腎尿路生殖器系疾患  （N00-99） | 呼吸器系疾患  （J00-J99） | 妊娠、分娩及び産褥  （O00-O99） | 損傷、中毒及びその他の外因の影響（S00-T98） | 筋骨格系及び結合組織疾患  （M00-M94) | 消化器系疾患  （K00-K94） | 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害（D50-D89） | 眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患（H00-H95） | その他・不明 |
| 10人  (127人) | 6人  (31人) | 0人  (12人) | 1人  (10人) | 0人  (0人) | 0人  (10人) | 10人  (90人) | 1人  (31人) | 0人  (10人) | 0人  (72人) | 43人  (909人) |

※下段の（～人）は昨年度調査結果。

受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者について、外来、入院(健診のみのものを除く)では14人、健診のみのもの(外来、入院を問わない)では78人、未収金の合計金額は、外来・入院ともに0円となっています。

※昨年度調査では、外来では1人、入院では0人、未収金の合計金額は、外来・入院ともに

0円となっています

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来、入院  (健診のみのものを除く) | 健診のみのもの  (外来、入院を問わない) | 合計 |
| 未収金を生じた延べ患者数 | 14人(1人) | 78人(5人) | 92人(6人) |
| 未収金の合計金額 | 0円(0円) | 0円(0円) | 0円(0円) |

※（～人）(～円)は昨年度調査結果

公的医療保険利用の有無について、外来、入院(健診のみのものを除く)では「利用あり」が11人、「利用なし」が28人、健診のみのもの(外来、入院を問わない)では「利用あり」が0人、「利用なし」が12人となっています。

※昨年度調査では、外来では「利用あり」が0人、「利用なし」が47人、入院では「利用あり」が0人、「利用なし」が1人となっています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 外来、入院  (健診のみのものを除く) | 健診のみのもの  (外来、入院を問わない) | 合計 |
| 公的医療保険　利用あり | 11人(0人) | 0人(0人) | 11人(0人) |
| 公的医療保険　利用なし | 28人(47人) | 12人(1人) | 40人(48人) |

※（～人）(～円)は昨年度調査結果

民間医療保険利用の有無について、「あり」が0.0％、「なし」が85.7％となっています。

## **③　未収金を生じた患者**

## **令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細**

　未収金を生じた在留外国人は、入院14人で4,429,703円、外来26人で505,885円、未収金を生じた訪日外国人(医療渡航を除く)は、入院3人で4,656,475円、外来6人で222,883円となっており、未収金となった金額の合計は、10,114,946円となっています。

※昨年度調査では、未収金を生じた在留外国人は、入院6人で1,145,148円、外来28人で347,372円、未収金を生じた訪日外国人(医療渡航を除く)は、入院4人で4,352,418円、外来7人で163,700円、未収金を生じた医療を目的に訪日した外国人は、外来1人で5,670円となっており、未収金となった金額の合計は、6,014,308円となっており、未収金額は増加傾向にあります。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 延べ患者数 | 延べ入院日数 | 請求金額（総額） | 未収金となった金額 |
| 在留外国人 | 入院 | 14人 | 130日 | 4,803,628円 | 4,429,703円 |
| 外来 | 26人 | - | 513,063円 | 505,885円 |
| 訪日外国人  (医療渡航を除く) | 入院 | 3人 | 37日 | 4,856,256円 | 4,656,475円 |
| 外来 | 6人 | - | 429,683円 | 222,883円 |
| 医療を目的に  訪日した外国人 | 入院 | 0人 | 0日 | 0円 | 0円 |
| 外来 | 0人 | - | 0円 | 0円 |
| 合計 | | 49人  (46人) | 167日  (98日) | 10,602,630円  (6,131,538円) | 10,114,946円  (6,014,308円) |

※下段の（～人）(～日)(～円)は昨年度調査結果。

# **医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査**

# **調査票C　大阪府独自追加調査**

## **①　基本情報**

## **所在地**

　病院の所在地を二次医療圏別でみると、「大阪市全体」が最も多く31.1％、次いで「泉州」が15.7％、「北河内」が13.9％と続いています。

　※昨年度調査では、「大阪市全体」が最も多く31.8％でした。次いで「泉州」が13.4％、次いで「北河内」が12.9％、「大阪市東部」が11.2％と続いていました。

(%)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 二次医療圏 | | 構成市町村・区 | |
| 豊能 | | 豊中市、池田市、吹田市、箕面市、豊能町、能勢町 | |
| 三島 | | 高槻市、茨木市、摂津市、島本町 | |
| 北河内 | | 守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四条畷市、交野市 | |
| 中河内 | | 八尾市、柏原市、東大阪市 | |
| 南河内 | | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、  太子町、河南町、千早赤阪村 | |
| 堺市 | | 堺市 | |
| 泉州 | | 岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、  阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 | |
| 大阪市全体 | | 大阪市 | |
|  | 大阪市北部 | | 都島区、東淀川区、旭区、淀川区、北区 |
| 大阪市西部 | | 福島区、此花区、港区、大正区、西淀川区、西区 |
| 大阪市東部 | | 天王寺区、浪速区、東成区、生野区、鶴見区、中央区、城東区 |
| 大阪市南部 | | 阿倍野区、住吉区、東住吉区、西成区、住之江区、平野区 |

## **②　外国人患者の年間受入れ実績**

## **平成30年度（4月1日～3月31日）中の受入れ実績　　　　　　　　＿＿＿**

　平成30年度に外国人患者の受入実績があると回答している病院件数は「全体222件」「豊能20件」「三島19件」「**北河内30件**」「中河内10件」「南河内16件」「堺市17件」「**泉州32件**」「大阪市全体76件」「大阪市北部13件」「大阪市西部13件」「**大阪市東部28件**」「大阪市南部22件」となっており、受入あり件数で見ると「泉州」が最も多く32件、次いで「北河内」30件、「大阪市東部」28件と続いています。

※昨年度調査では、「大阪市東部」が最も多く29件、次いで「泉州」が27件、「北河内」が26件と続いていました。

平成30年度の外国人患者数について、新規入院患者数合計2,706人のうち訪日外国人患者は137人となっており、外来初診患者合計18,961人のうち訪日外国人患者は1,403人となっています。「医療を目的にした訪日外国人」だと新規入院が全体の1.8％、外来が3.8％となっています。

※昨年度調査では、新規入院患者数合計2,076人のうち訪日外国人患者は122人となっており、外来初診患者合計12,983人のうち訪日外国人患者は1,217人となっていました。

※(a)～(d)各調査下段の（～人）は昨年度調査結果。(C)は昨年度調査なし。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | **合計** |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| (a+b+c+d)外国人患者合計 | 2,706人  (2,076人) | 522人  (396人) | 18,961人  (12,983人) | 2,091人  (1,834人) | **21,667人**  **(15,059人)** |
| (a)訪日外国人患者 | 137人  (122人) | 60人  (68人) | 1,403人  (1,217人) | 256人  (306人) | **1,540人**  **(1,339人)** |
| (b)在留外国人患者 | 1,038人  (764人) | 182人  (157人) | 7,961人  (4,638人) | 684人  (406人) | **8,999人**  **(5,402人)** |
| (C)医療を目的に訪日した外国人 | 48人 | 5人 | 615人 | 2人 | **663人** |
| (d)上記(a)か(b)か(C)か不明 | 1,467人  (1,170人) | 268人  (170人) | 8,538人  (6,964人) | 1,120人  (1,120人) | **10,005人**  **(8,134人)** |

　※外国人患者のみを記入しているものがあるため、合計が合わない。

また、二次医療圏及び大阪市基本医療圏における外国人患者は以下のとおりです。

※各医療圏人数下段の（～人）は昨年度調査結果。

**(a+b+c+d)外国人患者合計**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | 合計 |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| 豊能 | 375人  (163人) | 27人  (17人) | 2,423人  (1,322人) | 68人  (131人) | 2,798人  (1,485人) |
| 三島 | 143人  (96人) | 13人  (11人) | 828人  (628人) | 52人  (35人) | 971人  (724人) |
| 北河内 | 222人  (79人) | 44人  (27人) | 1,898人  (691人) | 134人  (38人) | 2,120人  (770人) |
| 中河内 | 60人  (112人) | 18人  (18人) | 560人  (654人) | 20人  (30人) | 620人  (766人) |
| 南河内 | 49人  (72人) | 3人  (14人) | 624人  (357人) | 18人  (25人) | 673人  (429人) |
| 堺市 | 126人  (112人) | 36人  (30人) | 567人  (546人) | 74人  (105人) | 693人  (658人) |
| 泉州 | 260人  (205人) | 20人  (44人) | 1,520人  (1,255人) | 86人  (119人) | 1,780人  (1,460人) |
| **大阪市全体** | **1,471人**  **(1,237人)** | **370人**  **(235人)** | **10,541人**  **(7,530人)** | **1,639人**  **(1,351人)** | **12,012人**  **(8,777人)** |
| 大阪市北部 | 581人  (533人) | 84人  (97人) | 2,619人  (2,654人) | 177人  (431人) | 3,200人  (3,187人) |
| 大阪市西部 | 239人  (199人) | 70人  (45人) | 2,952人  (2,073人) | 558人  (397人) | 3,191人  (2,272人) |
| 大阪市東部 | 526人  (335人) | 155人  (75人) | 3,767人  (2,052人) | 698人  (365人) | 4,293人  (2,387人) |
| 大阪市南部 | 125人  (170人) | 52人  (18人) | 1,203人  (751人) | 206人  (158人) | 1,328人  (921人) |
| **合計**  **（豊能～大阪市全体）** | **2,706人**  **(2,076人)** | **522人**  **(396人)** | **18,961人**  **(12,983人)** | **2,091人**  **(1,834人)** | **21,667人**  **(15,059人)** |

**(a)訪日外国人患者**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | 合計 |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| 豊能 | 4人 | 4人 | 44人 | 4人 | 48人 |
| 三島 | 10人 | 0人 | 35人 | 1人 | 45人 |
| 北河内 | 20人 | 7人 | 144人 | 8人 | 164人 |
| 中河内 | 1人 | 0人 | 16人 | 1人 | 17人 |
| 南河内 | 0人 | 0人 | 3人 | 0人 | 3人 |
| 堺市 | 7人 | 3人 | 22人 | 4人 | 29人 |
| 泉州 | 21人 | 8人 | 129人 | 18人 | 150人 |
| **大阪市全体** | **74人** | **38人** | **1,010人** | **220人** | **1,084人** |
| 大阪市北部 | 29人 | 6人 | 329人 | 3人 | 358人 |
| 大阪市西部 | 13人 | 9人 | 367人 | 121人 | 380人 |
| 大阪市東部 | 8人 | 8人 | 177人 | 56人 | 185人 |
| 大阪市南部 | 24人 | 15人 | 137人 | 40人 | 161人 |
| **合計**  **（豊能～大阪市全体）** | **137人** | **60人** | **1,403人** | **256人** | **1,540人** |

**(b)在留外国人患者**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | 合計 |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| 豊能 | 178人 | 16人 | 1,131人 | 8人 | 1,309人 |
| 三島 | 74人 | 5人 | 392人 | 22人 | 466人 |
| 北河内 | 135人 | 13人 | 876人 | 63人 | 1,011人 |
| 中河内 | 52人 | 18人 | 374人 | 18人 | 426人 |
| 南河内 | 25人 | 0人 | 247人 | 5人 | 272人 |
| 堺市 | 49人 | 8人 | 133人 | 16人 | 182人 |
| 泉州 | 48人 | 6人 | 818人 | 34人 | 866人 |
| **大阪市全体** | **477人** | **116人** | **3,990人** | **518人** | **4,467人** |
| 大阪市北部 | 164人 | 6人 | 279人 | 5人 | 443人 |
| 大阪市西部 | 44人 | 26人 | 698人 | 257人 | 742人 |
| 大阪市東部 | 169人 | 48人 | 2,087人 | 91人 | 2,256人 |
| 大阪市南部 | 100人 | 36人 | 926人 | 165人 | 1,026人 |
| **合計**  **（豊能～大阪市全体）** | **1,038人** | **182人** | **7,961人** | **684人** | **8,999人** |

**(c)医療を目的に訪日した外国人**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | 合計 |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| 豊能 | 12人 | 0人 | 492人 | 0人 | 504人 |
| 三島 | 11人 | 0人 | 23人 | 0人 | 34人 |
| 北河内 | 1人 | 0人 | 30人 | 0人 | 31人 |
| 中河内 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 南河内 | 1人 | 0人 | 11人 | 0人 | 12人 |
| 堺市 | 0人 | 0人 | 9人 | 0人 | 9人 |
| 泉州 | 15人 | 0人 | 2人 | 0人 | 17人 |
| **大阪市全体** | **8人** | **5人** | **48人** | **2人** | **56人** |
| 大阪市北部 | 4人 | 4人 | 20人 | 2人 | 24人 |
| 大阪市西部 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 大阪市東部 | 4人 | 1人 | 12人 | 0人 | 16人 |
| 大阪市南部 | 0人 | 0人 | 16人 | 0人 | 16人 |
| **合計**  **（豊能～大阪市全体）** | **48人** | **5人** | **615人** | **2人** | **663人** |

**(d)上記(a)か(b)か(C)か不明**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | 合計 |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| 豊能 | 181人 | 7人 | 756人 | 56人 | 937人 |
| 三島 | 48人 | 8人 | 378人 | 29人 | 426人 |
| 北河内 | 53人 | 20人 | 671人 | 56人 | 724人 |
| 中河内 | 7人 | 0人 | 87人 | 0人 | 94人 |
| 南河内 | 21人 | 3人 | 240人 | 11人 | 261人 |
| 堺市 | 70人 | 25人 | 403人 | 54人 | 473人 |
| 泉州 | 175人 | 6人 | 570人 | 34人 | 745人 |
| **大阪市全体** | **912人** | **199人** | **5,433人** | **880人** | **6,345人** |
| 大阪市北部 | 384人 | 67人 | 1,993人 | 167人 | 2,377人 |
| 大阪市西部 | 182人 | 35人 | 1,887人 | 180人 | 2,069人 |
| 大阪市東部 | 345人 | 96人 | 1,483人 | 532人 | 1,828人 |
| 大阪市南部 | 1人 | 1人 | 70人 | 1人 | 71人 |
| **合計**  **（豊能～大阪市全体）** | **1,467人** | **268人** | **8,538人** | **1,120人** | **10,005人** |

**外国人患者　新規入院患者数比較グラフ**

平成30年度の医療圏毎の外国人患者「新規入院患者数」は「大阪市全体」が最も多く1,471人、次いで「大阪市北部」581人、「大阪市東部」526人と続いています。

※昨年度調査では「大阪市全体」が最も多く1,237人、次いで「大阪市北部」533人、「大阪市東部」335人と続いています。各医療圏患者数が増加傾向にあります。

(人)

**外国人患者　新規外来患者数比較グラフ**

平成30年度の医療圏毎の外国人患者「新規外来患者数」は「大阪市全体」が最も多く10,541人、次いで「大阪市東部」3,767人、「大阪市西部」2,952人と続いています。

※昨年度調査では「大阪市全体」が最も多く7,530人、次いで「大阪市北部」2,654人、「大阪市西部」2,073人と続いています。各医療圏患者数が増加傾向にあります。

(人)

**外国人患者　新規入院・外来　合計患者数比較グラフ**

平成30年度の医療圏毎の外国人患者「新規入院・外来合計患者数」は「大阪市全体」が最も多く12,012人、次いで「大阪市東部」4,293人、「大阪市北部」3,200人と続いています。

※昨年度調査では「大阪市全体」が最も多く8,767人、次いで「大阪市北部」3,187人、「大阪市東部」2,387人と続いています。各医療圏患者数が増加傾向にあります。

(人)

## **外国人患者を受け入れる際に対応したことのある言語**

　外国人患者数を受け入れる際に対応したことのある言語について、「日本語（多言語対応不要）」が最も多く9,526人、次いで「中国語」が3,864人、「英語」が3,141人と続いています。

　※昨年度調査では、「中国語」が最も多く4,212人、次いで「英語」が3,783人、「韓国・朝鮮語」が805人と続いていました。昨年度は「日本語（多言語対応不要）」選択肢なし。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 言語 | 合計 | 構成比 | 平均 |
| 日本語(多言語対応不要) | 9,526人 | 50.7％ | 43.1人 |
| 英語 | 3,141人 | 16.7％ | 14.2人 |
| 中国語 | 3,864人 | 20.2％ | 17.1人 |
| 韓国・朝鮮語 | 426人 | 2.3％ | 1.9人 |
| タイ語 | 45人 | 0.2％ | 0.2人 |
| マレーシア語 | 12人 | 0.04％ | 0.05人 |
| タガログ語 | 58人 | 0.3％ | 0.3人 |
| フランス語 | 21人 | 0.06％ | 0.08人 |
| スペイン語 | 203人 | 1.2％ | 0.9人 |
| その他① | 1,371人 | 5.9％ | 5.0人 |
| その他② | 445人 | 2.4％ | 2.0人 |
| **合計** | **19,112人** | **100.0％** | － |

※その他①②は主にネパール語、ヒンドゥー語、ベトナム語、ペルシャ語、ポルトガル語、アラビア語、クメール語等、

## **外国人患者を受け入れる際に確認している情報**

　外国人患者を受け付ける際に確認している情報について、「受診時利用の言語」が最も多く39.6％、次いで「国籍」が25.7％、「宗教」が4.2％となっています。

　※昨年度調査では、「受診時利用の言語」が最も多く38.1％、次いで「国籍」が29.3％、「宗教」が4.4％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **外国人患者の受診理由**

外国人患者の受診理由について、１位では「発熱」が最も多く25.7％となっています。

　※昨年度調査でも、１位では「発熱」が最も多く22.5％となっていました。

(%)

【n=338】

※外傷は挫創・打撲・捻挫等、創処置が必要となるものを含む。

※その他は健康診断・糖尿病・脳梗塞・パニック障害・精神疾患・妊娠検査・がん治療・労災等

## **外国人患者を受け入れた際のトラブル**

外国人患者を受け入れた際に実際に発生したトラブルについて、「言語・コミュニケーション」が最も多く36.3％、次いで「未払いの発生」が17.2％、「マナー・文化」が10.6％となっています。

※昨年度調査では、「言語・コミュニケーション」が最も多く39.2％、次いで「未払いの発生」が18.6％、「マナー・文化」が16.4％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

外国人患者を受け入れた際に言語・コミュニケーションでトラブルが発生した状況について、「受付時」が最も多く85.8％、次いで「診察時」が75.8％、「会計時」が61.7％と続いています。

※昨年度調査では、「受付時」が最も多く85.3％、次いで「診察時」が69.2％、「会計時」が63.6％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

外国人患者を受け入れた際にマナー・文化でトラブルが発生した状況について、「日本での診療手順を把握していない」が最も多く62.9％となっています。

※昨年度調査でも、「日本での診療手順を把握していない」が最も多かったが、割合は50.0％となっており、今年度「日本での診察手順を把握していない」が増加傾向にあります。

(%)

## **外国人患者の医療保険加入の有無**

　　　　外国人患者が医療保険に加入していたかについて、1.公的医療保険の加入「あり」が全体で19,712人中、14,217人で、2.旅行保険の加入「あり」が全体で7,437人中390人となっており、共に「なし」より「不明」が多くなっています。（特に旅行保険）

　　　　※昨年度調査では、外国人患者の医療保険加入の有無に関しての調査は行っていません。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 公的医療保険加入あり | 公的医療保険加入なし | 不明 | 合計 |
| 豊能 | 2,745人 | 225人 | 104人 | 3,074人 |
| 三島 | 525人 | 9人 | 49人 | 583人 |
| 北河内 | 1,853人 | 117人 | 8人 | 1,978人 |
| 中河内 | 481人 | 22人 | 77人 | 580人 |
| 南河内 | 352人 | 43人 | 0人 | 395人 |
| 堺市 | 404人 | 59人 | 128人 | 591人 |
| 泉州 | 1,791人 | 253人 | 145人 | 2,189人 |
| **大阪市全体** | **6,066人** | **1,505人** | **2,751人** | **10,322人** |
| 大阪市北部 | 1,167人 | 77人 | 906人 | 2,150人 |
| 大阪市西部 | 2,378人 | 583人 | 79人 | 3,040人 |
| 大阪市東部 | 1,412人 | 704人 | 1,719人 | 3,835人 |
| 大阪市南部 | 1,109人 | 141人 | 47人 | 1,297人 |
| **合計(豊能～大阪市全体)** | **14,217人** | **2,233人** | **3,262人** | **19,712人** |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 旅行保険加入あり | 旅行保険加入なし | 不明 | 合計 |
| 豊能 | 11人 | 344人 | 590人 | 945人 |
| 三島 | 10人 | 0人 | 4人 | 14人 |
| 北河内 | 3人 | 7人 | 430人 | 440人 |
| 中河内 | 0人 | 0人 | 111人 | 111人 |
| 南河内 | 1人 | 0人 | 95人 | 96人 |
| 堺市 | 4人 | 116人 | 134人 | 254人 |
| 泉州 | 2人 | 16人 | 267人 | 285人 |
| **大阪市全体** | **359人** | **763人** | **4,170人** | **5,292人** |
| 大阪市北部 | 1人 | 111人 | 1,385人 | 1,497人 |
| 大阪市西部 | 321人 | 1人 | 1,022人 | 1,344人 |
| 大阪市東部 | 26人 | 627人 | 1,667人 | 2,320人 |
| 大阪市南部 | 11人 | 24人 | 96人 | 131人 |
| **合計(豊能～大阪市全体)** | **390人** | **1,246人** | **5,801人** | **7,437人** |

## **Q1-2で(C)医療を目的に訪日した外国人へどのような医療をしたか**

　　　　医療を目的に訪日した外国人への治療は、「妊娠・分娩及び産褥」579人で最も多く、次いで「その他」230人、「眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患」163人と続きます。

　　　　※昨年度調査では、医療を目的に訪日した外国人へどのような医療をしたかの調査は行っていません。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 医療内容 | 合計 | 構成比 |
| 1.悪性新生物 | 67人 | 4.8％ |
| 2.呼吸器系疾患 | 82人 | 5.9％ |
| 3.筋骨格系及び結合組織疾患 | 89人 | 6.4％ |
| 4.循環器系疾患 | 71人 | 5.1％ |
| 5.妊娠・分娩及び産褥 | 579人 | 41.7％ |
| 6.消化器系疾患 | 57人 | 4.1％ |
| 7.眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患 | 163人 | 11.7％ |
| 8.腎尿路生殖器系疾患 | 18人 | 1.3％ |
| 9.損傷、中毒及びその他の外因の影響 | 28人 | 2.0％ |
| 10.血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | 1人 | 0.1％ |
| 11.その他 | 230人 | 16.4％ |
| 12.その他 | 5人 | 0.5％ |
| **合計** | **1,390人** | **100.0％** |

## **おおさかメディカルネットについて**

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」について、「知っている」が35.3％、「知らない」が61.9％となっています。

※昨年度調査では、「おおさかメディカルネット」についての調査は行っていません。

(%)

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」について「知っている」の回答した病院の内、「使っている」が20.5％、「使っていない」が78.6％となっています。

(%)

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」の各種コンテンツの中で使われているコンテンツは「多言語対応マニュアル」が66.7％と最も多く、次いで「外国人患者対応マニュアル」が50.0％、「外国人患者受入拠点医療機関・外国人患者受入地域拠点医療機関」が45.8％と続いています。

(%)

※その他・・・準備はしているがまだ未使用、今後使用していきたい回答も複数あり。

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」を」使用しない理由については、「必要がないから」が65.7％と最も多く、次いで「その他」16.7％、「使い方がわからないから」が14.8％と続いています。

(%)

※「その他」として院内で周知していない、大阪府多言語遠隔通訳サービスを使用している、医療機関の検索時に使いたいが、クリックしても一度に医療機関リストに飛ばず、大阪府のHPに飛んでから再度クリックしなければならないので、使いづらい。等

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」に掲載してほしいコンテンツは、「コミュニケーションツール(指差しボード)」でした。

## **外国人患者の受入れにあたって、その他の意見等として**

【外国人患者受体制】

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | ・精神症状が激しい時に通訳が専門的にどの程度、対応可能なのか不明。・入院同意、治療同意に関してどこまで説明可能か分からない。・文書をもらう作業になった時の母国にいる家族との対応をどうするのか。時差もあるなど。 |
| 2 | 実際には外国人が来られるようなケースは無く、今後も当院の立地面からみて多くの外国人が受診に来られるような事は考えにくい。但し、備えだけはしておかないと、いざという時に対応出来ない為、早急に整備していきます。 |
| 3 | 現在、当院へ受診に来られた外国人患者は0人となっています。今後も0人とは限らないので、いつでも受け入れる体制をとっていかなければ、と考えています。 |
| 4 | 当院に来院の方は付き添いの方が通訳してくださる場合が多いです。事前にお問い合わせの上来院して頂けたら幸いです。 |
| 5 | 精神科病院は精神症状により外国人の方が精神保健法の応急入院になる場合があり、症状軽快するも退院時に無保険のため自費支払が出来ない場合がある。 |
| 6 | 通訳の方が同行していますので、対応に困ることは現在発生していない。 |
| 7 | 当院は療養病棟の病院です。今は、外国人患者様の受け入れはなしです。在日の患者様には、英語と中国語のできる職員にて、対応しています。受入れが必要があれば、おおさかメディカルネット等を利用します。 |
| 8 | 今後の大きな課題だと思いますが、当院では受入れ体制が全く整っていないのが現状です。 |
| 9 | 言語の問題が大きい。人員確保がたいへんである。 |
| 10 | 口頭でコミュニケーションが取れた場合でも、日本語以外の言語で書かれた書類（持病や服薬中の薬品について記載されている）を外国人患者さんから提示された場合、詳細が分からない時がある。 |
| 11 | コミュニケーションがスタッフと困難。未保険の時未収が怖い。この二点が大きな問題。 |
| 12 | 在留外国人の方が多い地域なので判断が難しくカウントできず。1年間ではベトナム約10人、中国約10人程度です。日本語が難しい場合は翻訳機で対応しています。 |
| 13 | 当院の医療機能区分は外来は一般内科が主となっており、入院は慢性期・看取りの病院であるため、ほとんどが大阪府内若しくは市内の高齢者となっており、外国人診療は該当しない。 |
| 14 | 基本的に外国人と別に登録を行っていない為、集計困難。 |
| 15 | 当院は腎尿路系の専門病院（人工透析）であり、救急告示をしていないため、事前に治療可能であることが分かっている患者を受け入れている。 また、実績については明らかに外国人と分かる患者のみ算入した。 |

【医療費】

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 過去Ｈ30.2頃にイギリス人の観光客が、入院され未収金となりました。ご両親が来られ、すぐに支払いできるだけと思い、ATM（国際）までご案内し５万円のみ徴収できましたが、その後は後沙汰なしで弁護士に相談しましたが、弁護士費用と手間が嵩むため、諦めました。外来は応召義務がありますが、支払い能力のない外国人（同意書を取っても意味がない）は入院は拒否してもよいでしょうか。 |
| 2 | 受入れ体制の整備には職種横断的な協力が必要であり、費用対効果等の様々な問題を解決する必要がある。 |
| 3 | 請求金額が不明瞭である。外国保険の請求がややこしい |

【通訳】

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 中国語通訳者を派遣して欲しい。タブレット端末の補助など不要。 |
| 2 | 当センターでは、外国人患者を受け入れておりますが、日本人と同様の取り扱いをしているため、人数等は区別して把握しておりません。診察時に外国語通訳を必要とする場合、通訳ボランティア派遣しています。この通訳ボランティアは府立病院機構で登録された方になります。質問Ｑ1-3で回答しました件数は、この通訳ボランティアを利用して受診した患者数になります。 また、外国人患者で初診時に受診を希望される場合は本人や保健所等の機関から、事前に受診相談の依頼があることが多く、受診前に医療費の説明をしています。 大きなトラブルは今のところありませんが、通訳ボランティアで対応できない言語を必要とされる場合に、人材探しに苦労しています。 |
| 3 | 通訳の方が同行していますので、対応に困ることは現在発生していない。 |

【大阪府に対する要望】

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 当院が市街地から離れた立地であるため正直実感がない。外国人の受診があったとしてもまれな事であり、そんな時に専用支援サイトの事など頭をよぎるとは思えない。市役所に電話したら回答してもらえる、そんな身近なシステムが有難いと考えます。 |
| 2 | 禁止事項、病態を文書にてご持参頂けると多少スムーズに対応ができるのではないかと思います。 |
| 3 | 私立医療機関では、未収・暴力・宗教・価値観・未知の感染症等々のリスクにさらされ自己防衛をせざるを得ません。医療機関への受診に関しての説明不足による混乱（これは一般患者にも言える）を丸投げされている点について慢性的な不安を感じています。 |
| 4 | 受入れ体制の整備には職種横断的な協力が必要であり、費用対効果等の様々な問題を解決する必要がある。 |
| 5 | 精神科病院は精神症状により外国人の方が精神保健法の応急入院になる場合があり、症状軽快するも退院時に無保険のため自費支払が出来ない場合がある。 |
| 6 | 無料の医療通訳者派遣等積極的に行ってほしいです。 |
| 7 | 言語の問題が大きい。人員確保がたいへんである。 |
| 8 | 入国前に結核検査が義務化されたが、対象国も限定されており、入国後早期に結核検査を義務付ける。 |
| 9 | 通訳の確保とコストの問題、未収金の回収などの問題が大きい。外国人患者に対して今回のアンケート項目にあるようなデータを記録し分析するシステムがなく、アンケートの回答が難しい。 |
| 10 | コミュニケーションがスタッフと困難。未保険の時未収が怖い。この二点が大きな問題。 |
| 11 | 未収金などの保証制度とか行政の支援を希望します。 |
| 12 | ・多言語遠隔医療通訳サービス（電話通訳）を診療所でも利用できるようにしてはどうか。軽症の場合、選定療養費と待ち時間がかかることを外国人患者に伝えると、診療所での受診を希望されることが多いため。 ・不法滞在者や旅行客など、入院により医療費が高額になり、支払いが困難となるケースが増えている。また、在留外国人でも、医療費が高額になるとわかると、それまでの医療費を未払いのまま急に帰国することもある。早い段階から医療費の相談をする、家族や知人に請求するなどの努力はしているが、回収が難しいケースも多い。未払金補てん事業等を実施していただけるとありがたい。 |
| 13 | 感染症の有無など充分に把握できず不安がある。自費診療の場合未収金が心配です。 |

# **2.診療所調査**

# **調査票Ａ　医療機関における外国人受入能力の把握調査**

## **①　基本情報（令和元年９月１日時点）**

## **所在地**

　診療所の所在地を二次医療圏別でみると、「大阪市」が最も多く32.7％、次いで「泉州」が13.5％、「北河内」が11.5％と続いています。

(%)

|  |  |
| --- | --- |
| 二次医療圏 | 構成市町村・区 |
| 豊能 | 豊中市、池田市、吹田市、箕面市、  豊能町、能勢町 |
| 三島 | 高槻市、茨木市、摂津市、島本町 |
| 北河内 | 守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、  門真市、四条畷市、交野市 |
| 中河内 | 八尾市、柏原市、東大阪市 |
| 南河内 | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、  藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村 |
| 堺市 | 堺市 |
| 泉州 | 岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、  和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 |
| 大阪市 | 大阪市 |

## **平成30年度の延べ外来患者数（日本人・外国人問わず）**

　平成30年度の延べ外来患者数について、「5,000人未満」が最も多く34.6％、次いで「10,000人以上30,000人未満」が26.9％、「5,000人以上10,000人未満」が17.4％と続いています。

※昨年度調査では、「5,000人以上10,000人未満」と「10,000人以上30,000人未満」がそれぞれ最も多く27.8％となっており「5,000人以上10,000人未満」が減少し「5,000人未満」が増加しています。

## **外国人患者対応マニュアルの整備状況**

(%)

　外国人患者対応マニュアルが整備されている病院は許可病床数別でみると、「1床以上20床未満」が33.3％となっています。

(%)

## **外国人向け医療コーディネーターの配置**

　外国人向け医療コーディネーターの配置について、「配置している」診療所はありませんでした。

※昨年度調査でも、外国人向け医療コーディネーターを配置している診療所はありませんでした。

(%)

## **医療通訳の配置**

　医療通訳の配置について、「配置している」診療所はありませんでした。

　※昨年度調査でも、医療通訳を配置している診療所はありませんでした。

(%)

## **電話通訳（遠隔通訳）の利用**

　電話通訳（遠隔通訳）の利用について、「利用していない」が98.1％占めています。

　※昨年度調査では、電話通訳を利用している診療所はありませんでしたが、今年度は1件利用していました。

(%)

## **ビデオ通訳（遠隔通訳）の利用**

　ビデオ通訳（遠隔通訳）の利用について、ビデオ通訳を利用している診療所はありませんでした。

(%)

【n=52】

## **院内案内図、院内表示の状況**

　院内案内図、院内表示の状況について、「多言語化していない」が96.2％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、院内案内図、院内表示を多言語化している診療所はありませんでしたが、今年度は1件ありました。

(%)

## **外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況**

外国人患者の受入に資するタブレット端末、スマートフォン端末の利用状況について、「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が92.4％と大半を占めています。

※昨年度調査では、「導入していない、又は医療従事者が個人で使用している」が88.9％と大半を占めており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **③　医療費の請求方法**

　医療費の請求方法について、「日本の診療報酬点数表を基準とし、１点10円で請求している」が最も多く88.5％となっています。

　※昨年度調査では、「日本の診療報酬点数表を基準とし、１点10円で請求している」が最も多く72.2％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

## **④　キャッスレス決済の導入状況**

## **カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済**

　カード（クレジットカード、デビットカード）を利用した決済の導入状況について、「導入していない」が92.3％と大半を占めています。

　※昨年度調査では、「導入していない」が88.9％と大半を占めており、昨年度とにた結果になっています。

(%)

## **非接触カードを利用した決済**

非接触カードを利用した決済の導入状況について、「導入していない」が80.8％と大半を占めています。

※昨年度調査では、非接触カードを利用した決済の導入している診療所はありませんでしたが、今年度は1件ありました。

(%)

## **ＱＲコードを利用した決済**

　ＱＲコードを利用した決済を導入状況について、ＱＲコードを利用した決済を導入している診療所はありませんでした。

※昨年度調査でも、ＱＲコードを利用した決済を導入している診療所はありませんでした。

(%)

## **⑤　未収金等への対策**

## **訪日外国人患者に対する診療に際し実施している取組**

　未収金等への対策として訪日外国人患者に対する診察に際し実施している取組について、「特に未収金対策を行なっていない」が最も多く75.0％、次いで「パスポート等、身分証のコピーの保存」「パスポート等、身分証の確認」が11.5％と続いています。

(%)

## **在留外国人に対する本人確認**

　在留外国人に対する本人確認について、「本人確認している」が34.6％、「本人確認していない」が50.0％となっています。

※昨年度調査では、「本人を確認している」が27.8％、「本人を確認していない」が38.9％となっていました。

(%)

在留外国人に対する本人確認の際に提示を求めているものについて、「その他」が最も多く50.0％(主に保険証)、次いで「パスポート」が38.9％となっています。

※昨年度調査では、「パスポート」が最も多く46.7％となっており、「その他」は26.7％だった事から、パスポートよりも主に保険証で本人確認をしている診療所が増えたと考えられます。

(%)

# **調査票Ｂ　外国人患者の受入に関する調査**

## **①　基本情報**

## **所在地**

　診療所の所在地を二次医療圏別でみると、「大阪市全体」が最も多く29.8％、次いで「泉州」「北河内」が12.8％と続いています。

(%)

|  |  |
| --- | --- |
| 二次医療圏 | 構成市町村・区 |
| 豊能 | 豊中市、池田市、吹田市、箕面市、  豊能町、能勢町 |
| 三島 | 高槻市、茨木市、摂津市、島本町 |
| 北河内 | 守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、  門真市、四条畷市、交野市 |
| 中河内 | 八尾市、柏原市、東大阪市 |
| 南河内 | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、  藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村 |
| 堺市 | 堺市 |
| 泉州 | 岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、  和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 |
| 大阪市 | 大阪市 |

## **②　外国人患者の受入実績**

## **令和元年10月1日～10月31日の期間に受け入れた在留外国人患者**

　在留外国人患者の受入れの有無について、外来では「なし」が最も多く51.1％、次いで「あり」が44.7％、「把握できなかった」が2.1％、入院では期間中、在留外国人患者を受入れた診療所はありませんでした。

※昨年度調査では、外来「なし」が最も多く54.5％、次いで「あり」が36.4％、「把握できなかった」が6.8％となっていました。昨年度も入院の受入れはありませんでした。

≪外来≫

## **令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた訪日外国人（医療渡航を除く）**

訪日外国人（医療渡航を除く）の受入れの有無について、外来では「なし」が最も多く89.3％、次いで「あり」が6.4％、「把握できなかった」が4.3％、入院では期間中、訪日外国人（医療難航を除く）を受入れた診療所はありませんでした。

※昨年度調査では、外来「なし」が最も多く90.9％、次いで「あり」が4.5％となっていました。昨年度も入院の受入れはありませんでした。

## **令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた医療を目的に訪日した外国人**

医療を目的に訪日した外国人の受入れの有無について、外来、入院（健診のみのものを除く）、健診のみのもの（外来、入院を問わない）それぞれ期間中に医療を目的に訪日した外国人を受入れた診療所はありませんでした。

※昨年度調査では、医療を目的に訪日した外国人の受入れの有無について、外来「なし」が最も多く90.9％、次いで「あり」が4.5％となっていました。

## **③　未収金を生じた患者**

## **令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細**

　期間中に未収金を生じた診療所はありませんでした。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 延べ患者数 | 延べ入院日数 | 請求金額（総額） | 未収金となった金額 |
| 在留外国人 | 入院 | 0人 | 0日 | 0円 | 0円 |
| 外来 | 0人 | - | 0円 | 0円 |
| 訪日外国人  (医療渡航を除く) | 入院 | 0人 | 0日 | 0円 | 0円 |
| 外来 | 0人 | - | 0円 | 0円 |
| 医療を目的に  訪日した外国人 | 入院 | 0人 | 0日 | 0円 | 0円 |
| 外来 | 0人 | - | 0円 | 0円 |
| 合計 | | 0人 | 0日 | 0円 | 0円 |

**医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査**

# **調査票C　大阪府独自追加調査**

## **①　基本情報**

## **所在地**

　病院の所在地を二次医療圏別でみると、「大阪市」が最も多く33.3％、次いで「泉州」が13.8％、「北河内」が11.8％と続いています。

(%)

|  |  |
| --- | --- |
| 二次医療圏 | 構成市町村・区 |
| 豊能 | 豊中市、池田市、吹田市、箕面市、  豊能町、能勢町 |
| 三島 | 高槻市、茨木市、摂津市、島本町 |
| 北河内 | 守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、  門真市、四条畷市、交野市 |
| 中河内 | 八尾市、柏原市、東大阪市 |
| 南河内 | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、  藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村 |
| 堺市 | 堺市 |
| 泉州 | 岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、  和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 |
| 大阪市 | 大阪市 |

## **②　外国人患者の年間受入れ実績**

## **平成30年度（4月1日～3月31日）中の受入れ実績**

平成30年度の外国人患者の受入実績について、「あり」は54.9％、「なし」は45.1％となっています。

※昨年度調査では、「あり」は30.0％、「なし」は68.0％となっており、外国人患者の受入のある診療所が増加しています。

平成30年度の外国人患者数について、新規入院患者数合計346人のうち訪日外国人患者は16人となっており、外来初診患者合計331人のうち訪日外国人患者は16人となっています。

※昨年度調査では、新規入院患者数合計261人のうち訪日外国人患者は24人となっており、外来初診患者合計261人のうち訪日外国人患者は24人となっていました。

※(a)～(d)各調査下段の（～人）は昨年度調査結果。(C)は昨年度調査なし。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | **合計** |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| (a+b+c+d)外国人患者合計 | 15人  (0人) | 0人  (0人) | 331人  (261人) | 0人  (0人) | **346人**  **(261人)** |
| (a)訪日外国人患者 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 16人  (24人) | 0人  (0人) | **16人**  **(24人)** |
| (b)在留外国人患者 | 15人  (0人) | 0人  (0人) | 230人  (205人) | 0人  (0人) | **245人**  **(205人)** |
| (C)医療を目的に訪日した外国人 | 0人 | 0人 | 20人 | 0人 | **20人** |
| (d)上記(a)か(b)か(C)か不明 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 105人  (32人) | 0人  (0人) | **105人**  **(32人)** |

　※外国人患者のみを記入しているものがあるため、合計が合わない。

また、二次医療圏及び大阪市基本医療圏における外国人患者は以下のとおりです。

※各医療圏人数下段の（～人）は昨年度調査結果。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 新規入院患者 | | 外来初診患者 | | 合計 |
|  | うち救急搬送患者 |  | うち救急搬送患者 |
| 豊能 | 15人  (0人) | 0人  (0人) | 32人  (12人) | 0人  (0人) | 47人  (12人) |
| 三島 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 30人  (12人) | 0人  (0人) | 30人  (12人) |
| 北河内 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 18人  (20人) | 0人  (0人) | 18人  (20人) |
| 中河内 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 10人  (3人) | 0人  (0人) | 10人  (3人) |
| 南河内 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 0人  (10人) | 0人  (0人) | 0人  (10人) |
| 堺市 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 49人  (4人) | 0人  (0人) | 49人  (4人) |
| 泉州 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 23人  (1人) | 0人  (0人) | 23人  (1人) |
| 大阪市 | 0人  (0人) | 0人  (0人) | 169人  (199人) | 0人  (0人) | 169人  (199人) |
| **合計** | **15人**  **(0人)** | **0人**  **(0人)** | **331人**  **(261人)** | **0人**  **(0人)** | **346人**  **(261人)** |

**外国人患者数比較グラフ**

平成30年度の医療圏毎の外国人患者は「大阪市」が最も多く169人、次いで「堺市」49人、「豊能」47人と続いています。

※昨年度調査では「大阪市」が最も多く199人、次いで「北河内」20人、「豊能」「三島」がそれぞれ12人と続いています。特に「豊能」「堺市」「泉州」の患者数が増加傾向にあります。

(人)

## **外国人患者を受け入れる際に対応したことのある言語**

　外国人患者数を受け入れる際に対応したことのある言語について、「日本語（多言語対応不要）」が最も多く265人、次いで「中国語」が56人、「英語」が18人と続いています。

　※昨年度調査では、「英語」が最も多く36人、次いで「中国」が31人、「韓国・朝鮮語」が21人と続いており、「中国」が増加しています。昨年度は「日本語（多言語対応不要）」選択肢なし。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 言語 | 合計 | 構成比 | 平均 |
| 日本語(多言語対応不要) | 265人 | 76.6％ | 9.5人 |
| 英語 | 18人 | 5.2％ | 0.6人 |
| 中国語 | 56人 | 16.2％ | 2.0人 |
| 韓国・朝鮮語 | 5人 | 1.4％ | 0.2人 |
| タイ語 | 1人 | 0.3％ | 0.04人 |
| マレーシア語 | 0人 | 0.0％ | 0.0人 |
| タガログ語 | 0人 | 0.0％ | 0.0人 |
| フランス語 | 0人 | 0.0％ | 0.0人 |
| スペイン語 | 0人 | 0.0％ | 0.0人 |
| その他① | 1人 | 0.3％ | 0.04人 |
| その他② | 0人 | 0.0％ | 0.0人 |
| **合計** | **346人** | **100.0％** | － |

※その他①はヒンディー語

## **外国人患者を受け入れる際に確認している情報**

　外国人患者を受け付ける際に確認している情報について、「受診時利用の言語」が最も多く29.4％、次いで「国籍」が19.6％、「宗教」が0.0％となっています。

　※昨年度調査では、「受診時利用の言語」が最も多く12.0％、次いで「国籍」が10.0％、「宗教」が2.0％となっており、「国籍」「受信時利用の言語」が増加しています。

(%)

## **外国人患者の受診理由**

外国人患者の受診理由について、１位では「発熱」が最も多く13.7％となっています。

※昨年度調査でも、１位では「発熱」が最も多く14.0％となっており昨年度と似た結果になっています。

【n=51】

(%)

※外傷は挫創・打撲・捻挫等、創処置が必要となるものを含む。

※その他は健康診断・糖尿病・脳梗塞・パニック障害・精神疾患・妊娠検査・がん治療・労災等

## **外国人患者を受け入れた際のトラブル**

外国人患者を受け入れた際に実際に発生したトラブルについて、「言語・コミュニケーション」が最も多く21.6％、次いで「マナー・文化」が3.9％、「未払いの発生」が2.0％となっています。

※昨年度調査では、「言語・コミュニケーション」が最も多く18.0％となっており、昨年度と似た結果になっています。

(%)

外国人患者を受け入れた際に言語・コミュニケーションでトラブルが発生した状況について、「診療時」が最も多く81.8％、次いで「受付時」が63.6％、「会計時」が27.2％と続いています。

※昨年度調査では、「受付時」と「診療時」がそれぞれ最も多く66.7％と続いており、今年度は「診療時」が増加しています。

(%)

外国人患者を受け入れた際にマナー・文化でトラブルが発生した状況について、「患者や付添人の待合室や診察室での過ごし方」が最も多く100.0％となっています。

※昨年度調査では、外国人を受け入れた際にトラブルが発生した状況についての調査は行っていません。

(%)

## **外国人患者の医療保険加入の有無**

　　　　外国人患者が医療保険に加入していたかについて、1.公的医療保険の加入「あり」が全体で352人中、343人で、2.旅行保険の加入「あり」が全体で90人中7人となっています。

　　　　※昨年度調査では、外国人患者の医療保険加入の有無に関しての調査は行っていません。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 公的医療保険加入あり | 公的医療保険加入なし | 不明 | 合計 |
| 豊能 | 33人 | 0人 | 0人 | 33人 |
| 三島 | 26人 | 2人 | 2人 | 30人 |
| 北河内 | 14人 | 2人 | 0人 | 16人 |
| 中河内 | 11人 | 0人 | 0人 | 11人 |
| 南河内 | 2人 | 0人 | 0人 | 2人 |
| 堺市 | 49人 | 0人 | 0人 | 49人 |
| 泉州 | 24人 | 0人 | 0人 | 24人 |
| 大阪市 | 184人 | 3人 | 0人 | 187人 |
| **合計** | **343人** | **7人** | **2人** | **352人** |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 医療圏 | 旅行保険加入あり | 旅行保険加入なし | 不明 | 合計 |
| 豊能 | 0人 | 0人 | 29人 | 29人 |
| 三島 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 北河内 | 2人 | 0人 | 8人 | 10人 |
| 中河内 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 南河内 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 堺市 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 泉州 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 大阪市 | 5人 | 23人 | 23人 | 51人 |
| **合計** | **7人** | **23人** | **60人** | **90人** |

## **Q1-2で(C)医療を目的に訪日した外国人へどのような医療をしたか**

　医療を目的に訪日した外国人への治療は、「その他」185人で、次いで「呼吸器系疾患」82人、「悪性新生物」66人と続きます。

※昨年度調査では、医療を目的に訪日した外国人へどのような医療をしたかの調査は行っていません。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 医療内容 | 合計 | 構成比 | 平均 |
| 1.悪性新生物 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 2.呼吸器系疾患 | 25人 | 86.2％ | 0.49人 |
| 3.筋骨格系及び結合組織疾患 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 4.循環器系疾患 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 5.妊娠・分娩及び産褥 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 6.消化器系疾患 | 2人 | 6.9％ | 0.04人 |
| 7.眼及び付属器の疾患、耳及び乳様突起の疾患 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 8.腎尿路生殖器系疾患 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 9.損傷、中毒及びその他の外因の影響 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 10.血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | 0人 | 0.0％ | 0人 |
| 11.その他 | 2人 | 6.9％ | 0.04人 |
| 12.その他 | 0人 | 0.0％ | － |
| **合計** | **29人** | **100.0％** | － |

## **おおさかメディカルネットについて**

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」について、「知っている」が13.7％、「知らない」が80.4％となっています。

(%)

医療機関向け外国人患者受入れ支援サイト「おおさかメディカルネット」について「知っている」の回答した病院の内、「使っている」が14.3％、「使っていない」が85.7％となっています。

(%)

# **Ⅲ　調査結果の分析**

## **１．二次医療圏別の外国人患者受入実績**

平成30年度に外国人患者の受入実績があると回答している病院件数は「全体222件」「豊能22件」「三島19件」「**北河内30件**」「中河内10件」「南河内16件」「堺市17件」「**泉州32件**」「大阪市全体76件」「大阪市北部13件」「大阪市西部13件」「**大阪市東部28件**」「大阪市南部22件」となっており、受入あり件数で見ると「泉州」が最も多く32件、次いで「北河内」30件、「大阪市東部」28件と続いています。

※昨年度調査では、「大阪市東部」が最も多く29件、次いで「泉州」が27件、「北河内」が26件と続いていました。

※各医療圏における外国人患者受入人数の詳細はP54～P57に記載されています。

(a)訪日外国人患者、(b)在留外国人患者、(C)医療を目的に訪日した外国人、(d)上記(a)か(b)か(C)か不明

リンク先 → [受入人数](#受入人数)

## **２．診療科目別の外国人患者受入れ実績**

診療科目別の外国人患者受入れ実績を見ると、各科目全てが過半数を超えている事が分かります。「美容外科」「小児歯科」は病院件数が少ない為外国人患者受入れ実績が共に100％となっている事も分かります。

## **３．病床数別の「外国人患者の受入に関する体制整備方針」の把握**

病床数別の「体制整備方針」の把握について見ると、規模の小さい病院ほど平均より「内容を確認していない」割合が高まる傾向にある事が分かります。

## **４．病床数別の「電話通訳」の利用状況**

病床数別の「電話通訳」の利用状況で見ると、規模の小さい病院ほど平均より「利用していない」の割合が高まる傾向にある事が分かります。

## **５．病床数別の「タブレット」の利用状況**

病床数別の「タブレット」の利用状況で見ると、規模の小さい病院ほど平均より「導入していない、又は医療従事者が個人で使用」の割合が高まる傾向にある事が分かります。

## **６．病床数別の「キャッシュレス決済」の利用状況**

病床数別の「キャッシュレス決済」の利用状況で見ると、規模の小さい病院ほど平均より「導入していない」の割合が高まる傾向にある事が分かります。

## **７．外国人患者受入れ環境の整備状況と外国人患者受入れ実態との相関関係の分析**

　外国人患者対応マニュアルが整備されている病院での外国人患者とのトラブルは「あり」が50.0％「なし」が46.2％となっています。

外国人患者対応マニュアルが整備されていない病院での外国患者とのトラブルは「あり」が31.5％「なし」が56.8となっています。

外国人患者の受入れ実績は概ね「許可病床数」「外来患者」「入院患者」が多い程増加傾向にあり、その分外国人向けマニュアル等を整備していても言語等のトラブルは起きています。しかし、マニュアルがあるが整備されている病院程、外国人患者とのトラブルが多い訳ではなくマニュアル等を使い外国人患者へ対応可能な人員、システムが足りていないからこそのトラブル件数と思われます。

以上より、外国人患者とのトラブルを減らすためには更なるマニュアル整備が必要であると考察します。